

若林区内の遺跡紹介

若林区は仙台市の南東部にあり、東は太平洋に面し、南には広瀬川と名取川が流れています。面積は約50km²で、広々とした平らな土地が広がっています。「若林」という地名は寛永4年(1627年)伊達政宗が、現在の宮城刑務所の場所に若林城を造ったことに由来します。若林区内には遠見塚古墳や陸奥国分寺跡をはじめとして、集落、古墳、城館などの遺跡が41カ所もあります。その中からこれまで発掘調査が行なわれた代表的な遺跡をいくつか紹介します。



▲木製のクワとオノの柄

遠見塚古墳(遠見塚)

今から1600年前頃の古墳で、長さが110m、高さが6.5mあります。県内では名取市の雷神山古墳について2番目の大きさです。昭和60年に史跡公園として整備され、市民のいこいの場となっています。



▲主体部全景



▲陸奥国分寺跡全景

現在の薬師堂は伊達政宗によって建てられたもので、国の重要文化財に指定されています。

中在家南遺跡(荒井)

昭和63年の調査によって発見された遺跡です。川のあとから弥生時代(今から2000年前頃)と古墳時代(今から1500~1600年前頃)の木で作られた農具などが大量にみつっています。

普及活動の記録

文化財は、現代社会に生きる私たちに人間としての生き方・未来への在り方を示し、多くの教訓を語りかけてくれています。これらの文化財を活用して、今年度も数々の行事を実施しました。



親子文化財めぐり



夏休み親子体験学習会



大野田小学校体験学習



東長町小学校体験学習



第13回文化財展

三二報告 -今年度のその他の調査-

- 燕沢遺跡：宮城野区燕沢
平安時代の住居跡や掘立柱建物跡などがみつかりました。
- 養種園遺跡：若林区南小泉
古墳時代の遺構・遺物がみつかりました。
- 山口遺跡：太白区富沢・泉崎
弥生時代後期の水田跡がみつかりました。
- 大貝中遺跡：太白区坪沼
縄文時代の遺物や平安時代の住居跡がみつかりました。

今泉城跡(今泉)

昭和55年と56年の調査によって縄文時代から江戸時代までの生活の跡や土器などの生活用具がみつっています。中でも鎌倉時代から室町時代にかけての城跡にかかわるものが多く、当時のくらしぶりがよくわかります。江戸時代の記録には室町時代の終わり頃に須田玄蕃という人が今泉城の城主であったと記されています。



▲漆をぬったお椀

江戸時代の記録には室町時代の終わり頃に須田玄蕃という人が今泉城の城主であったと記されています。

第14回文化財展

——— 発掘この一年 ———



郡山遺跡現地説明会(平成2年9月8日)

仙台市教育委員会

一 泉 区 一

沼遺跡(上谷刈)

七北田川の南岸にある遺跡です。今回の調査で、縄文時代の住居あとが8軒みつかりました。住居の中には石を組んで作ったりつばなる炉があります。ほかに江戸時代の水田やお墓、道路のあともみつかりました。



▲縄文時代の住居あと

一 宮城野区 一

大蓮寺窯跡(東仙台)

今回の調査では、3つの窯あとと窯で焼いた時の失敗品や灰などを捨てた所がみつかりました。その中の一つの窯あとは瓦を焼いており、飛鳥時代から奈良時代ははじめのものです。



▲調査風景

鴻ノ巣遺跡(岩切)

七北田川の南岸にある遺跡です。今回の調査で、七北田川ぞいでは初めて、古墳時代の水田あとがみつかりました。そのほかには、平安時代から室町時代にかけての溝あとや井戸あと、建物の柱あとなどがみつかっています。



▲古墳時代の水田あと

一 若林区 一

押口遺跡(荒井)

七郷市民センターの北側でみつかった遺跡です。ここには、弥生時代から中世までの約1000年間かかって埋まった幅20m、深さ2.5mの川のあとがありました。埋まった土の中からは土器や木でつくられた農具などがみつかった。



▲調査風景



▲調査風景

南小泉遺跡(南小泉ほか)

広瀬川の北岸にあり、弥生時代から江戸時代まで続いた遺跡です。その中心には遠見塚古墳があります。今回の調査では、弥生時代の石器や古墳時代と平安時代の住居あとなどがみつかりました。

一 太白区 一

郡山遺跡(郡山)

名取川と広瀬川の合流点の西側にある、飛鳥時代から奈良時代ははじめの役所とお寺のあとです。今回の調査では、倉庫のあとや材木の屑で囲まれた鍛冶の作業場・建物あとがみつかりました。

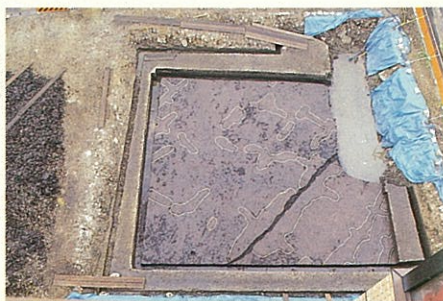


▲倉庫あと

郡山遺跡(郡山中学校)

役所の外側からは、長さ24mもある長大な建物あとが2棟みつかりました。その内の1棟は火災にあつたようです。

◀ 2棟並んだ建物あと



▲弥生時代ごろの水田あと

王ノ壇遺跡(大野田)

名取川の北岸にある遺跡です。今回の調査では、縄文時代から鎌倉時代にかけての住居あとやお墓・畑のあとなどがみつかりました。また縄文時代に起きた地震のあともみつかりました。



▲調査風景



▲江戸時代の屋敷の堀あと

上ノ原山遺跡(茂庭)

名取川ぞいの台地の上にある遺跡です。今回の調査で縄文時代のおとし穴や土器・石器などの生活用具、旧石器時代の石器などがみつかりました。



▲旧石器の出土状況

町田遺跡(茂庭)

名取川北岸にある遺跡です。縄文時代のおとし穴がたくさんみつかりました。また、建物が何度も立て替えられたあとがあり、人々が長い間ここにすんでいたようすがわかりました。



▲調査風景

相ノ原遺跡(坪沼)

名取川の南岸にある遺跡です。縄文時代のおとし穴や土器・石器、平安時代の住居あとや土器がみつかりました。また石組の暗きよなどもみつかりました。



▲石組の暗きよ

